

FOSS4Gを活用した 自治体業務DXの試み

エアロトヨタ株式会社 自治体アセット事業部自治体DX推進室
一般社団法人OSGeo日本支部 事務局長
勝部 圭一



FOSS4GとOSGeo

●FOSS4Gとは？

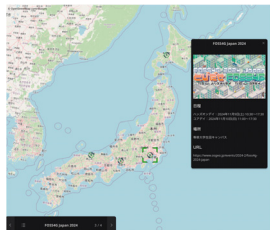
「Free and Open Source Software for Geospatial」の略称で、QGISやLeafletのようなオープンソースの地理空間情報ソフトウェア群を指します。
またOSGeoが主催する国際会議の名称でもあります。

●OSGeoとは？

非営利組織OSGeo財団「Open Source Geospatial Foundation」の略称で、オープンな地理空間情報技術の普及とコミュニティ育成を支援する世界的な組織です。
一般社団法人OSGeo日本支部（OSGeo.JP）はその公式支部として2006年に設立されました。

OSGeo.JPの主な活動

- オープンソースの地理空間情報ソフトウェアの普及活動
 - ・ 2007年から主催イベント（FOSS4G）を毎年開催
 - ・ 北海道、東海、信州など各地のローカルコミュニティの活動支援
- 2026年には世界大会「FOSS4G Hiroshima 2026」を主催！



FOSS4G Hiroshima 2026

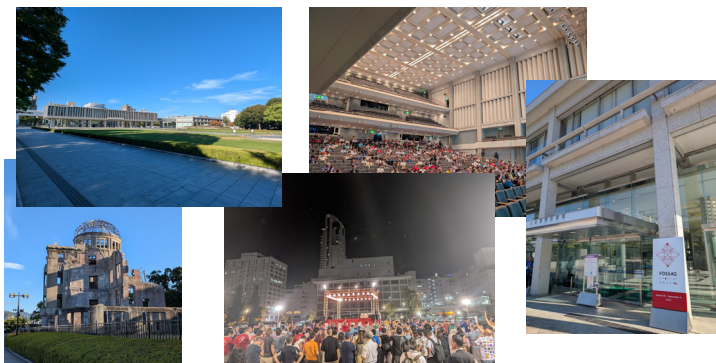
【テーマ】"Bridging Geospatial Technology and Humanity"

【主催】一般社団法人OSGeo日本支部、OSGeo財団

【参加者】65か国800名超（国内からは約300名）

【スケジュール】

- ・ ワークショップ：8/30(日)～8/31(月) RCC文化センター
- ・ カンファレンス：9/1(火)～9/3(木) 広島国際会議場
- ・ コミュニティスプリント：9/4(金) JMSアステールプラザ
- ・ エクスカーション：9/5(土) 平和記念公園、宮島など
- ・ その他関連するコミュニティイベントを日本各地で開催



FOSS4Gを用いるメリット・デメリット

【メリット】

- ・ 導入コストがかからないのでスモールスタート、トライアル、学習用途などに適している。
- ・ 地理空間情報技術を網羅するソフトウェアが提供されており、様々な応用が可能
- ・ 将来的に業務の範囲やユーザー数が変わりスケールアップした際にも、導入計画や費用がシステム提供企業のライセンス体系やビジネスモデルに左右されない。
- ・ システムによるベンダーロックインが生じないので、データに対する主導権（データ主権）を担保できる。

【デメリット】

- ・ 利用は自己責任

FOSS4Gの自治体への導入事例紹介

① QGISを活用した庁内DX研修



② GoogleワークスペースとRe:Earthの連携による オープンデータの可視化



空にさががけ 未来をひらく

エアロトヨタ株式会社 本社・航空事業本社：東京都江東区新木場4-7-41 / 空防情報事業本社：埼玉県川越市南台3-14-4